



opinion

モットーは、「お客さまに良いものをお届けしたい」

富 士山の麓に広がる山梨県の郡内地域は、古くから養蚕の適地で、富士の清らかな湧水にも恵まれていることから織物が盛んに行われ、郡内織物とよばれてきました。肌触りの良い独特な風合いのある郡内織物は、江戸時代には「郡内縞（ぐんないじま）」の名で広く知られるようになり、江戸時代の文献にも登場するなど、高級絹織物として高い評価を得てきました。そんな郡内織物を生み出す先染織物などの伝統技術は、今もこの地域（富士吉田市、西桂町、都留市、大月市及び上野原市の5地区）にしっかりと受け継がれています。

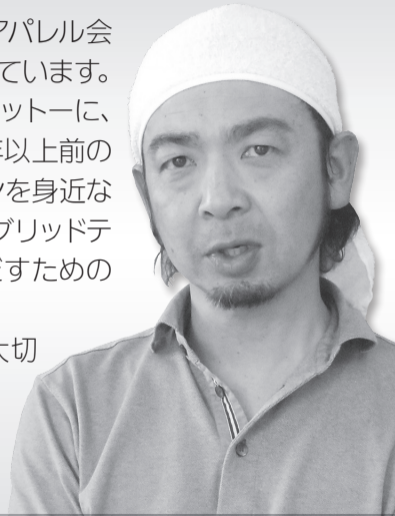
当社は西桂の地で大正年間に創業し、伝統の技術を守り受け継いでいる企業のひとつで、100年の永きにわたり郡内織物を手掛けてきました。

当初は、養蚕業とともに織物業を始め、洋服の裏地や傘地、マフラーの生地を製造してききました。昭和40年には、現在の

主力商品であるネクタイの製造をスタートさせ、大手アパレル会社や有名セレクトショップに高品質なネクタイを提供しています。

当社は、「お客さまに良いものをお届けしたい」をモットーに、デザイン開発に力を入れています。そのために100年以上前の海外のデザインサンプルの収集、デザインとファッションを身近なものにするために年2回以上のヨーロッパ研修、ハイブリッドテキスタイルなどの新技術の開発等、良いものを作りだすためのさまざまな取り組みを行っています。

私は、長い歴史を持つ伝統の技を守り継ぐことを大切にしながら、それに加え新しい技に挑み新たな魅力を打ち出していく姿勢こそが、郡内織物を次世代へとつないでいく方法だと考えています。



西桂織物工業協同組合 株式会社川栄 代表取締役社長 川村 昌洋